

令和6年度広島県食育推進会議 議事要旨

日 時 令和7年3月26日（水）15:00～16:20

場 所 オンライン開催

出席者 森脇委員（会長）、灰岡委員、魚谷委員（副会長）、元廣委員、岡田委員、柏崎委員、佐藤委員、柳川委員、石川委員、宇佐川委員、畑山委員（代理：棒田 営農組織支援部次長）西中委員（代理：児玉主事）、渡邊委員、岩永委員、今榮委員、橋本委員（以上16名）

開会

委員紹介

会長及び副会長の選任

委員の互選により森脇会長、魚谷副会長が選任された。

議事 第4次広島県食育推進計画に係る取組状況について

事務局：次の資料に基づき説明

資料1 第4次広島県食育推進計画 目標一覧

資料2 食育推進事業主な取り組みと実施主体（R6～8）

資料3 第4次広島県食育推進計画 重点目標に係る取組状況について

資料4 第4次広島県食育推進計画 基本的施策 取組状況（関係課）

計画策定のときに絞り込みを行い15の目標項目を立てている。

重点目標については、第三次計画と同様、1日の食塩摂取量の減少、1日の野菜摂取量の増加、毎日朝食を食べる県民の割合の増加を掲げた。重点目標を補完するもの、その他の目標を掲げている。

目標の進捗を図るためのデータソースとして、一部の項目については厚生労働省が行う国民健康・栄養調査の広島県分データを活用しているところだが、県分のデータがまだ入手できない状態にある。データ入手出来次第、集計を行い、数値を更新していく。

県民健康意識調査結果をデータソースとしているものについて、本調査の結果が現在集計中である。こちらも今後更新を行っていく。

昨年9月に食育に関するインターネット実施した。対象の選び方や対象者数が異なるものであるが、傾向を把握し今後の取組の参考とするため、直近値を把握したので報告する。

改善したものとしては、食品表示を商品の購入に活用している人の割合が増えていた。

共食、農林漁業体験については悪化している。

食生活改善推進員以外のボランティア数が増えているのは、広島市の状況を把握できることとなったためである。

資料2では計画前半の主な取組と実施主体を示している。参考にしてほしい。

重点目標に関しては、資料3のとおり関係団体含め様々な取り組みを行っていただいた。

関係課の取組状況報告については、資料4にて代えさせていただく。

関係団体：次の資料に基づき取組紹介

資料5 第4次広島県食育推進計画 基本的施策 取組状況（関係団体）

魚谷委員： 医師会の方はアレルギー相談の窓口などで貢献している、小児科医師、アレルギー専門医が頑張ってくれている。

食育健康サミットを日本医師会が主催するが、地区医師会が広報に協力している。

その他、四師会の主催で、骨粗しょう症をテーマとしたお話をしてもらい取り組みも行ったところ。

森協会長： 歯科医師会の委員が欠席のため代わって説明する。

保育園において、口腔機能を育むための調査を実施。結果を踏まえ、予防の取組を提案した。来年度は、啓発資料を作成し、保健指導を行う予定。

元廣委員： 県民フォーラムでフレイル予防についてのパネル展示や、チラシ、レシピ等の配布、栄養相談等を実施した。

来年度になるが、大阪万博において、各県の地産の食材を使って定食をつくりましょう、という依頼が日本栄養士会からあり、かきめしを含んだレシピを提供している。あわせて、定食のフードモデルを会場に展示することとなっている。

岡田委員： 私たちの健康は私たちの手で、伸ばそう健康寿命 繋ごう郷土の食というスローガンで活動している。

親子の食育教室、生涯骨太クッキング、男性のための料理教室、やさしい在宅介護食教室、災害時の食事支援教室、食生活改善推進員が減員するヘルスサポーター事業、県の方からも説明があったように、ヘルスサポーターを養成し、食に関心を持つ人を増やす取組を行っている。ヘルスサポーター養成事業は、中学校、高校、専門学校、大学短大等々の若い世代、働き世代、高齢世代ということで、3段階に渡って実施している。

その他としては、地産地消、郷土料理の推進に取り組んでいる。

柏崎委員： 小中学校の子供達や保護者対象として活動している。

ひろしま給食100万食プロジェクトでは、学校の広報誌に100万食メニューが掲載されている。また、PTA広報誌にコラムを掲載し、広報を行っている。

佐藤委員： 食育に関する研修会を3回実施した。

子供の食への困りごと、園の昼ご飯おいしいよ、保護者とともに進める離乳食、離乳食期の食育という3つのテーマで研修を行った。

その他、各園での保護者支援、健康面での配慮、クッキング活動や野菜の栽培・収穫体験、給食の配膳など、各種の体験の機会を提供している。

また、食文化の継承活動を実践し、行事食の提供により季節を感じられるように努めている。

柳川委員： 幼稚園は、弁当を自宅から持参しているところ、給食を提供している園もあれば、外部委託でお弁当給食で対応している園など様々であるが、保護者から食事のこと等の相談があった場合は、積極的に相談に乗っている。給食室がある園に関しては、管理栄養士の先生を中心に取組を行っており、総合的に様々な形で食育の相談等の支援を行っている。

宇佐川委員：いただきますぶちうま継承プロジェクトについて説明させていただく。

この事業は県内を4ブロックに分け、毎年地域で育まれてきた食にスポットを当てて実施している。今回は福山市内海町を会場として実施した。

当日は小学生及びその保護者を対象に、市場の紹介、仕事の理解、調理体験、試食ということで、魚のうろこ取り体験や、目の前で魚をさばくところの見学などを行っている。それら以外に、地元漁師に協力を得て、海を取り巻く環境問題についても学ぶことができた。

ただ食べるだけではなく、自然の恵み、命をいただくことへの感謝、食を支える水産業の理解。無駄なくいただくという食品ロス、環境保全の理解など、一つの事業の中に様々なことを盛り込んで実施している。

来年度は、竹原市で開催する。現在準備を進めているところ。

棒田次長： 幼稚園、学校等の団体とともに、バケツ稲づくりの実践を行った。成長過程の写真をJ Aグループ広島のInstagramへ定期的に投稿紹介することで展開した。バケツ稲から取れた米をおにぎりにして食べるなど食育の教育に利用している。

2点目として、農業体験や、料理教室等がある。たとえば味噌づくり等は幼稚園児やその保護者を対象に、料理と一緒に作って食べていたき、味噌の良さを知っていく。

大学との協働については県内3 J Aが実施している。県内産の野菜等を使用したレシピ等を作成、プレゼンする場に管轄 J Aの職員、営農指導員等が入り、評価をするなどしている。

地産地消について、広島の食を守ろうというメッセージをインフルエンサーに依頼し、広報している。

児玉主事： 県内の小中学校を対象に、牛乳がどのようにできるのかという生産から給食の場までのことについて、出前授業を実施。J Aグループひろしまとの連携で実施した起農みらい塾においても、牛乳の生産から販売までの過程について、授業を実施した。

3月3日には、三次市市民ホールでシンポジウムを行った。日本の食と農を考える、そのゴールとは？ ということで、総勢600名を超える参加者の中、東京大学大学院、鈴木特任教授に講演、パネルディスカッションを実施した。

日本の食料自給率が38%、広島県が22%。こうすれば体に良いよということだけでなく、生産者の思いなども語るようにしている。イベントでは、牛を現地に連れて行く、搾乳模擬体験なども行い、命をいただく という部分から子供たちに接している。

渡邊委員： 減塩わかめや食塩不使用のから揚げなどの新規提案を随時行っている。

また広島給食推進プロジェクトに参画して、広島県内の企業や栄養士と、食育についての会議も行っている。

環境に配慮して育てられた国際認証のマリンエコラベルジャパン認証、これを取得している地域の商品を取り扱うため、同じくマリンエコラベルジャパンのCoC認証を取得して、商品開発等を行い販路拡大に努めている。

地域の新鮮な水産物を使用した料理を楽しめる水産まつり、また、カキ祭り等を通して地元の人々との交流も図っている。

岩永委員： 組合員の食と健康を守ることが生活協同組合のテーマである。食に対しては力を入れている。食について組合員の疑問や、知りたいと思っていることについて情報提供を行っている。

今、様々な情報が乱れ飛んでおり、組合員が不安になってることが多い。一つ一つ、これは違う、これが正しいというような学びを行っている。

また、エシカル消費という言葉をもっと多くの組合員に知ってもらうよう力を入れて

いる。例えば、市場に出回らないバナナを砕いて、別の商品に作り替えるという、もったいないシリーズの商品を広める活動なども行っている。

地産地消については、消費者と生産者がともに歩むということで、とうもろこしのもぎ取り体験、田植え・稲刈り体験、ブドウの産地の交流会、卵とか牛乳の産地交流会などを実施した。

けんこうチャレンジについて説明する。7月から10月まで、子供は30日間、大人は1ヶ月から2ヶ月、けんこうに関する目標にチャレンジし、報告をいただいた方に抽選で、オーラルケアセット等を送っている。

本年度は、小学校の校長会などでもPRしたほか、安田女子大の協力でフレイル予防の料理教室、スポ少料理交流会も取組に関連するものとして開催している。

また今年から2次元コードで報告できるようにした。若い人達も参加しやすくなったと思う。

森脇会長： 食品衛生協会、スーパーマーケット協会については、欠席のため当方から紹介する。食品衛生協会については、食中毒予防の市内パレード、ノロウイルス予防講習会、手洗い指導などを実施。その他としては、表示講習会の開始やチラシによる啓発活動などを実施。

スーパーマーケット協会におかれては、SNSでのレシピ提案、販売拡充、啓発ハンドブックの作成など。その他関係機関との連携による取り組みとして公民館との連携、農業体験、大学との連携など様々な活動を実施された。

ここからは今後の計画推進についての意見交換とする。何か意見等あるか。

朝食欠食する人が、特に若い人に多いが、食べない理由の第1位は時間がない、家以外で食べている人は1割程度、朝または夕食で家族と食べる教職の回数も減っている。公立学校代表の石川委員に中学生の状況等をお聞きしたい。

石川委員： 本校の状況になるが、現在は、部活動の朝練習を実施していないため、朝の生活にゆとりができていていると感じる。反面、1人1台端末やスマホ、ゲーム等の普及により、夜遅くまでゲームをしたり、インターネットを見たりして、生徒の生活が不規則になっていることも事実。このことを踏まえると、朝食を食べてこない、朝起きられない生徒は多数いると考えられる。

本校は、令和5年度、6年度と国の指定を受け、調和のとれた生活を目指して、人間関係を土台に、「早寝早起き朝ごはん」の取組を行っている。朝食・睡眠・運動それぞれに講師の先生に來校していただき、朝食については、自身が電子レンジで簡単にできるレシピを紹介していただき、実際に調理する中で、生徒・保護者が朝食の重要性を認識し、令和6年度末には、本校の約9割の生徒が朝食を食べてくるようになっている。

森脇会長： 柏崎委員にもお聞きしたい。

柏崎委員： 朝起きられない、朝食が摂れない、保護者も忙しく準備がおろそかになるなどあり、自分自身もきちんとしなければ と思いながら聞いたところだが、冬の保健日よりでは、早起き、朝ご飯、運動を中心に、休みの間も生活リズムを崩さないようというお知らせが出されている。その他学校単位になるが、PTAがお弁当づくりの講演会を行うなどしている。最終的には、保護者が気を付けるしかないように感じる。

森協会長： オブザーバーとして広島市から出席があるが、取組について参考にお聞きしたい。

広島市： 令和5年の食育に関する調査結果において、20代の男女およそ3人に1人ぐらいが朝食欠食しているという現状。広島市でも課題になっている。10代、働き世代、単身者、これらはどうしても伸び悩むといった中、様々な主体と連携し、取り組んでいきたい、自然に健康になれる環境づくりに向けて力を入れたいと思っている。

森協会長： 20歳前後の学生を見ると本当に朝食欠食多いという現状がある
あと1つ、減塩、栄養成分表示の活用について、聞きたい。
食品購入のときに栄養成分表示を活用している人は約5割、消費者は何を見ているのか、何を求めているのか ということ、消費者のニーズはどのあたりにあるのか、岩永委員にお聞きしたいがいかがか。

岩永委員： 塩分は大変気にしている。例えばカップラーメン、塩分何グラムと書いてあり、1食食べるとそれだけで1日の塩分の半分以上を摂ってしまう。
それを見ると、目標の達成は難しいと感じる。どういう食生活をすれば良いのか、実際にやってみることは必要と感じる、表示も行われているが、難しいという印象。

森協会長： 様々な課題や意見が出された。灰岡委員、感想などあればお聞きしたい。

灰岡委員： いろいろな課題があるということと、特に朝食のこと、食塩摂取のことは、とても勉強にもなった。これから取組むべきことも見えてきたので、引き続き様々な立場からの声を聞かせていただきたい。

森協会長： 今榮委員に、市町の取組等について意見をいただきたい。

今榮委員： 様々な団体が取組を、探しながら実施されている。苦労もあり、課題もありという認識をした。竹原市では、市民から集めたアイデアを食事に取り入れていただくチラシを使って啓発している。こうした取組を積み重ねることによって、効果が少しずつでも取り組んでいかなければならないというのが、本日の会議の感想である。

1点、目標の進捗を図るためのデータの吸い上が非常に難しいのではないかと感じた。それらも含め、意見を交換しながら取り組めていければと思う。

森協委員： 橋本委員、意見をお願いしたい。

橋本委員： 目標一覧を見て、どちらかというと悪くなっているものが多かった印象がある。
策定時の数値把握が、コロナの行動制限時であったということだが、結果的に、行動制限が食育にとってプラスに働いていたというのは、ちょっといかがなものかなと思いながら、制限が解けた中で目標達成していくことの難しさを感じた。
毎年の変化が分かれば、傾向も見えていくことができる。
本町では、スマホと連動して〇〇歩以上歩いた方には地域通貨でポイントを取り入れるなどの取組を行っているが、生協連合会から紹介していただいたけんこうチャレンジは、大変参考になった。

森協会長： 農林水産省の食育推進評価専門委員会が3月に開催されており、報告書を見たところ、悪化していた項目が、共食、朝食欠食、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を摂っている若い人が少ないなど、広島県と同様のことが全国でも課題になって

いる。

食の簡便化、手間がかからない、安いものを求めている国民が多い。自然に健康になれる食育のアプローチが必要だとコメントされていた。

広島県の目標の達成度については、令和8年度内にインターネット調査を行い把握すると聞いている。良い結果がられればと思う。

地域共生社会推進担当部長挨拶

本日は、年度末のお忙しい中にもかかわらず、第4次広島県食育推進計画の推進状況について熱心に御協議いただき、ありがとうございました。

この計画は、昨年度1年間をかけて検討を行い、令和6年3月に策定いたしました。第3次計画に引き続き、「健康寿命の延伸」を総括目標に掲げ、関係の皆様の御協力により各種の取組を進めていくこととしております。

食育とは、食に関する様々な経験を通じて知識を獲得し、望ましい食生活を実践することと定義されています。一方で、少子高齢化や単身世帯の増加、個人の価値観やライフスタイルの多様化により、「食べる」ということへの思いが、少し薄らいできているようにも感じます。

「食」は人が生きていく上で欠かすことのできないものです。人生100年時代を健康に過ごすための食育は、今後ますます必要になってくると考えております。

本日はいただきました御意見を踏まえ、関係者と連携しながら引き続き食育の推進に取り組んでまいります。

委員の皆様には、引き続きの御協力をお願い申し上げまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

閉会